

2021年東北地区大学図書館協議会
フレッシュパーソンセミナー
2021年8月26日

大学図書館概論

佐藤義則
(東北学院大学)

1

到達目標

- ① 大学図書館の設置根拠を説明できる
- ② 統計に基づき大学図書館の現状を説明できる
- ③ 大学図書館が持つ課題について説明できる
- ④ 今後の大学図書館の役割について説明できる(これからの方向性)

2

①大学図書館の設置根拠

- 設置・運営に関して規定した単独の法律はない
- 旧国立学校設置法では第6条「国立大学に附属図書館を置く」とあった
 - 国立大学法人化に伴い廃止(2004年)
- 国立大学法人法, 私立学校法には図書館に関する規定なし

3

大学設置基準

- (昭和31年10月22日文部省令第28号)
- 学校教育法第3条に基づき1956(昭和31年)制定
- 1991年 大綱化と同時に, 図書館に関する現在の規定に
 - 各大学における裁量範囲の拡大(自己責任), 以前は蔵書冊数や座席数等の数値基準を規定
 - さすがに古すぎて, 時代にそぐわない(ネットワーク情報源, ラーニングコモンズ, 機関リポジトリ...)
 - しかし, どのように規定し直すのが良いのか?

4

第36条 (校舎等施設)

第三十六条 大学は、その組織及び規模に応じ、少なくとも次に掲げる専用の施設を備えた校舎を有するものとする。ただし、特別の事情があり、かつ、教育研究に支障がないと認められるときは、この限りでない。

- 一 学長室、会議室、事務室
- 二 研究室、教室(講義室、演習室、実験・実習室等とする。)
- 三 図書館、医務室、学生自習室、学生控室

(中略)

6 夜間において授業を行う学部(以下「夜間学部」という。)を置く大学又は昼夜開講制を実施する大学にあつては、研究室、教室、図書館その他の施設の利用について、教育研究に支障のないようにするものとする。

(昭四八文令二九・一部改正、平三文令二四・旧第三十七条繰上・一部改正、平一五文科令一五・平一九文科令二二・一部改正)

5

第38条(図書等の資料及び図書館)

第三十八条 大学は、学部の種類、規模等に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする。

2 図書館は、前項の資料の収集、整理及び提供を行うほか、情報の処理及び提供のシステムを整備して学術情報の提供に努めるとともに、前項の資料の提供に関し、他の大学の図書館等との協力に努めるものとする。

3 図書館には、その機能を十分に発揮させるために必要な専門的職員その他の専任の職員を置くものとする。

4 図書館には、大学の教育研究を促進できるような適当な規模の閲覧室、レファレンス・ルーム、整理室、書庫等を備えるものとする。

5 前項の閲覧室には、学生の学習及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えるものとする。

(平三文令二四・追加)

6

関連事項

- 大学図書館基準
 - 大学基準協会が諸基準の一環として策定（1952）
 - 1982年、向上基準として新基準に改訂（量的基準の削除）
- 全7項
 - 1 総論 2 図書館の機能と業務
 - 3 職員 4 施設・設備
 - 5 組織および管理運営 6 予算
 - 7 相互協力

改善要項

- 国立大学図書館改善要項（文部省大学学術局 1953）
- 公立大学図書館改善要項（公立大学図書館協議会 1961）
- 公立短期大学図書館改善要項（公立短期大学図書館協議会 1978）
- 私立大学図書館改善要項（私立大学図書館協会 1956, 1996改訂）
- 私立短期大学図書館改善要項（私立短期大学協会 1998）

機関別認証評価との関連

- 大学基準協会による平成29年度機関別認証評価結果
 - 全47大学(公立大学, 私立大学)のうち, 7大学に対して改善指示
 - 根拠: 大学設置基準第38条第3項
 - 5大学:「図書館において、専門的な知識を有する専任職員を配置していなので、改善が望まれる」
 - 2大学:「キャンパスの図書館において、専門的な知識を有する専任職員を配置していなので、改善が望まれる」
- しかし, 平成30年度以降の認証評価では指摘なし(評価基準の見直し)

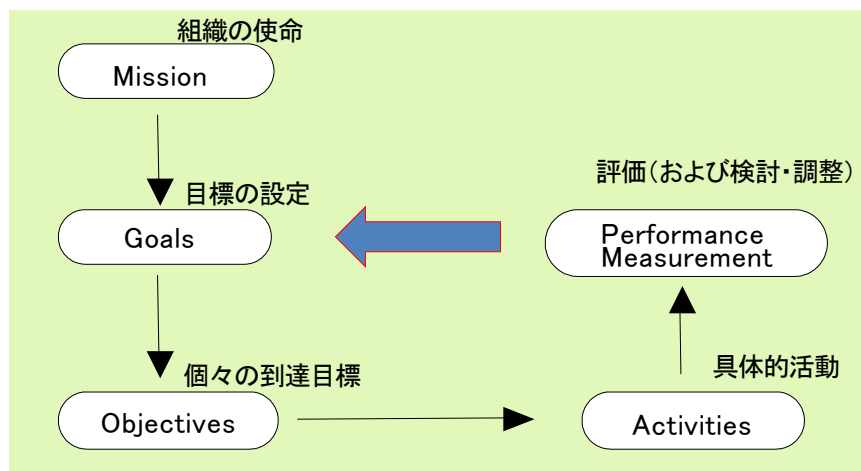
9

大学認証評価団体

- 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構(1991-)
 - 国立大学, 公立大学等
- 公益財団法人 大学基準協会(1947-)
 - 私立大学が主対象
- 公益財団法人 日本高等教育評価機構(2004-)
 - 私立大学が主対象

10

図書館の経営サイクル



Measuring Quality: International Guidelines for Performance Measurement in Academic Libraries. IFLA Publications 76, 1996

11

Roswitha Poll, & Peter te Boekhorst. *Measuring Quality: Performance Measurement in Libraries.* 2nd revised ed. IFLA, 2007, 269p.

- 初版(1996年版):
 - 「大学図書館におけるパフォーマンス測定ガイドライン」
 - 17の指標
- 第2版(2007年版):
 - 大学図書館だけでなく、公共図書館をも対象
 - 40の指標(広範囲の情報源とサービスを対象、伝統的サービスと電子的サービス、サービス品質に関わるさまざまな要素を包含)

パフォーマンス指標 (IFLA, 2007)の対象領域

- A. 情報資源、基盤 (Resources, Infrastructure): 図書館はどんなサービスを提供しているか
- B. 利用 (Use): サービスはどのように受容されているか
- C. 効率 (Efficiency): サービスは高い費用対効果で実施されているか
- D. 可能性と発展 (Potentials and development): 今後の発展可能性が充分に見込めるか

アカウンタビリティ

- 説明責任
 - 責任(responsibility), 応答性(answerability), 透明性(transparency)
- 「より多くの人々(連邦及び州政府、民間部門、高等教育の消費者(学生と両親))が現在では、個々の機関における教育の便益がその経費と同等か、それを凌駕しているかどうかを尋ねている。疑いなく、人々は結果がその支出に見合うと考えるならば経費をよるこんで負担しよう。」
Hernon, P. & Dugan, R. E. *An Action Plan for Outcomes Assessment in Your Library*. ALA, 2002, p. 1.

②統計に見る大学図書館の現状

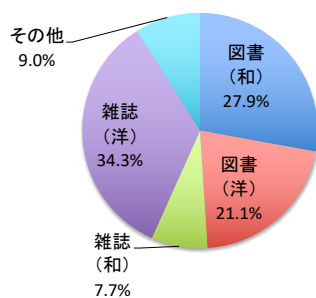
1. 図書館資料費の割合の比較
2. 図書館資料費(全体)の推移
3. 図書館職員数の推移

15

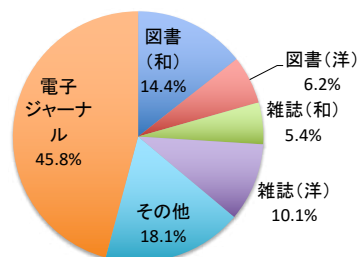
大学図書館は既に、デジタル、ネットワークの時代に

※学術情報資源実態調査(文部科学省)における大学図書館資料費の内訳

1998年(総額 = 75,282百万円)

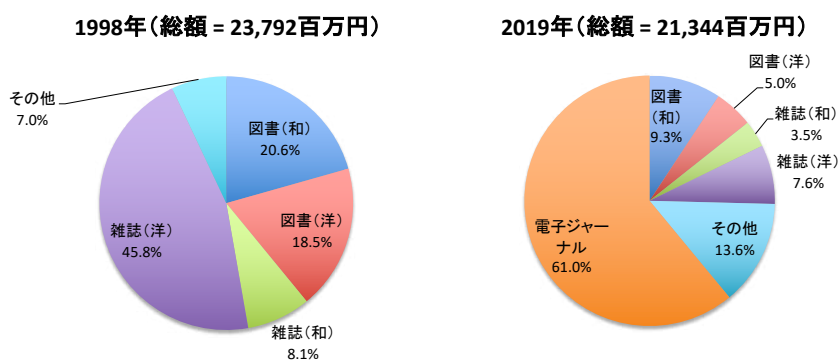


2019年(総額 = 70,923百万円)



16

国立大学の場合



17

大学図書館資料費(全体)の推移

単位=百万円

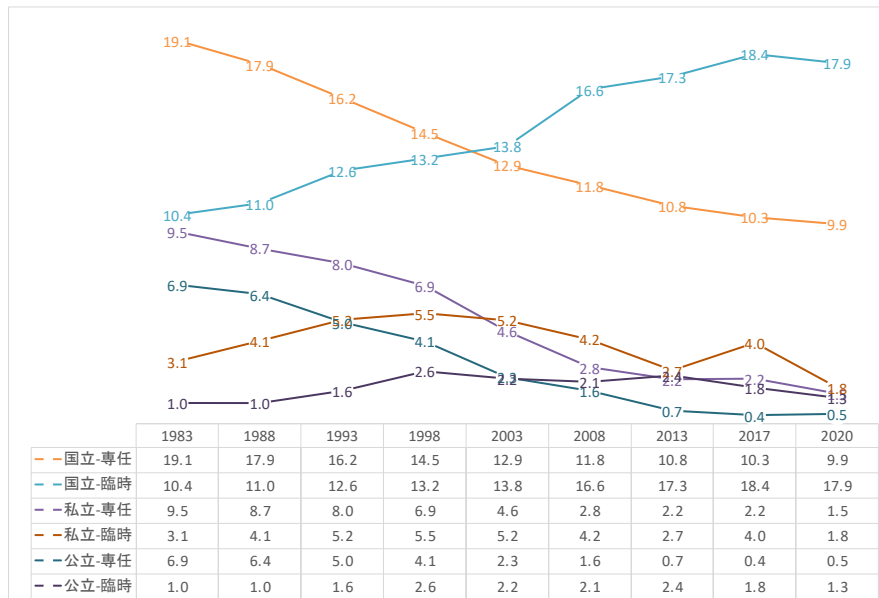
年度	図書		雑誌		電子ジャーナル	その他	合計	図書館総経費に占める割合(%)	大学総経費に占める割合(%)	電子書籍
	和	洋	和	洋						
1986	15,423	14,805	3,845	15,806	-	2,877	52,756	45.9	1.7	-
1989	17,374	17,025	4,514	16,831	-	3,457	59,201	44.7	1.7	-
1992	18,985	18,244	5,253	21,314	-	5,701	69,497	43.8	1.6	-
1995	21,120	15,973	5,721	20,994	-	6,258	70,066	41.8	1.5	-
1998	20,982	15,898	5,801	25,833	-	6,769	75,282	41.8	1.5	-
2001	20,281	13,695	6,002	27,812	-	7,179	74,969	42.8	1.4	-
2004	18,614	11,286	7,334	33,431	6,198	5,722	82,585	43.9	1.4	-
2007	16,957	10,044	5,397	19,852	15,526	6,997	74,773	46.1	1.2	-
2010	15,817	8,019	4,865	12,599	20,714	9,536	71,551	46.1	1.1	650
2013	13,679	7,231	4,552	9,928	24,596	10,568	70,554	46.7	1.0	944
2016	11,372	5,578	4,272	8,988	30,242	11,444	71,896	45.1	1.0	1,267
2019	10,203	4,405	3,827	7,176	32,495	12,817	70,923	48.8	1.0	1,687

18

図書館専門職数の推移(1983-2020)

		大学数	専門全体		
			専任	臨時	計
1983	国立	93	1,773	967	2,740
	私立	326	3,111	1,010	4,121
	公立	34	235	35	270
2003	国立	97	1,247	1,340	2,587
	私立	526	2,426	2,711	5,137
	公立	76	176	170	346
2013	国立	86	933	1,485	2,418
	私立	605	1,332	1,607	2,939
	公立	83	54	199	253
2020	国立	86	854	1,543	2,397
	私立	621	961	1,106	2,067
	公立	94	51	121	172

19



20

業務委託の進行

国立大学	大学数	全面委託 大学数	図書館・室職員総数			業務委託等 人数
			専任	臨時	計	
2013	86	1	1,674	2,014	3,688	179
2015	86	1	1,635	2,042	3,677	233
2017	86	0	1,589	2,012	3,601	239
2019	86	0	1,524	2,100	3,624	233
2020	86	1	1,518	1,975	3,493	222

私立大学	大学数	全面委託 大学数	図書館・室職員総数			業務委託等 人数
			専任	臨時	計	
2013	605	82	3,476	3,300	6,776	3,492
2015	607	86	3,275	3,199	6,474	3,837
2017	608	100	3,070	2,995	6,065	4,072
2019	613	113	2,922	2,848	5,770	4,400
2020	621	116	2,866	2,668	5,534	4,382

公立大学	大学数	全面委託 大学数	図書館・室職員総数			業務委託等 人数
			専任	臨時	計	
2013	83	9	275	506	781	106
2015	86	11	259	505	764	159
2017	89	10	252	485	737	214
2019	93	15	266	465	731	257
2020	94	17	275	449	724	257

21

③大学図書館の課題

- 資料および教育・研究を取り巻くすべてのデジタル化
- 人員確保
- 予算
- オープンアクセス？
- 失われた10年(30年)

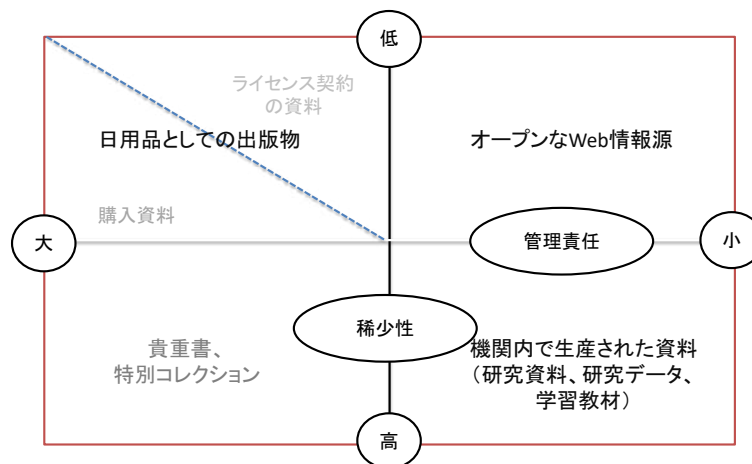
22

④今後の大学図書館の役割

- 「大学図書館の機能」(Atkinson, 1989)
 - (1) 報知機能 (notification function)
 - (2) 資料機能 (documentation function)
 - (3) 歴史機能 (historical function)
 - (4) 教育機能 (instructional function)
 - (5) 書誌機能 (bibliographic metafunction)
- デジタルへの移行とともに、これらのすべての機能のあり方が変わる(変わらなければならない)

23

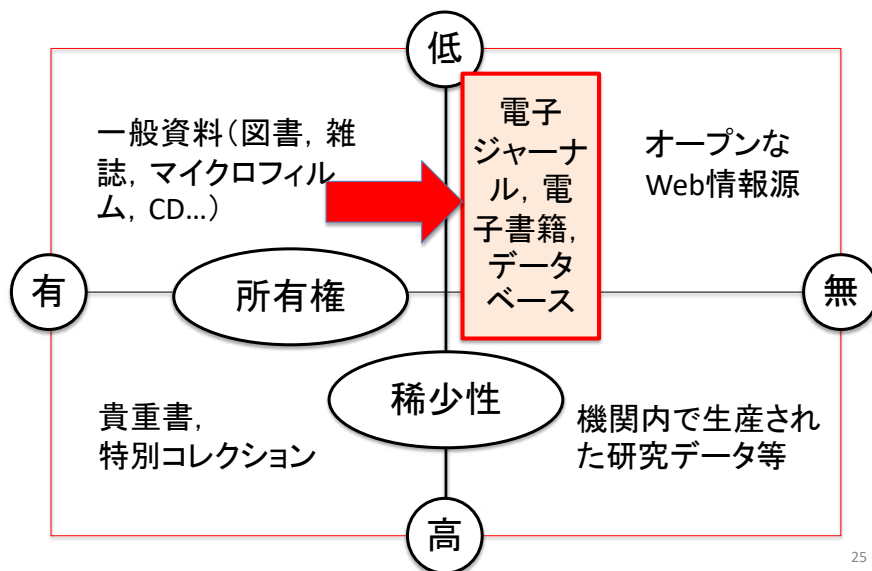
コレクション・グリッド



参照: Malpas, Constance. "Scarcity and Abundance: the Cooperative Imperative in Special Collections," 53rd Annual RBMS Preconference, 20 June 2012. available at <http://www.oclc.org/research/presentations/default.htm>

24

コレクション・グリッド(改)



印刷体資料と電子情報資源

	印刷体資料	電子情報資源
資料の在処	図書館内	図書館(内)外
利用対象	(同じものが多数, 印刷出版された)資料の一つ一つ	真正性(authenticity)を備えた, 単一(唯一)の情報源
アクセス	物理的所蔵に基づく	契約や協定に基づく
メタデータ作成	人手による確認、入力	(プログラム等による)既存データの有効活用
目録処理	共同分担目録(書誌データと資源の共有)	集中的作業(典拠データ、リンク形成)
課題	メタデータの品質レベル	保存 メタデータの品質レベル 永続的アクセスの管理 情報源間の関係性の整理

図書館コレクションの変化

- 館内所蔵から, ウェブ上の情報資源へ
(所蔵からアクセスへ)
- 単独のコレクションから, 集合的コレクションへ
(collective collection)
- 共有資源から, 公共財へ(?)

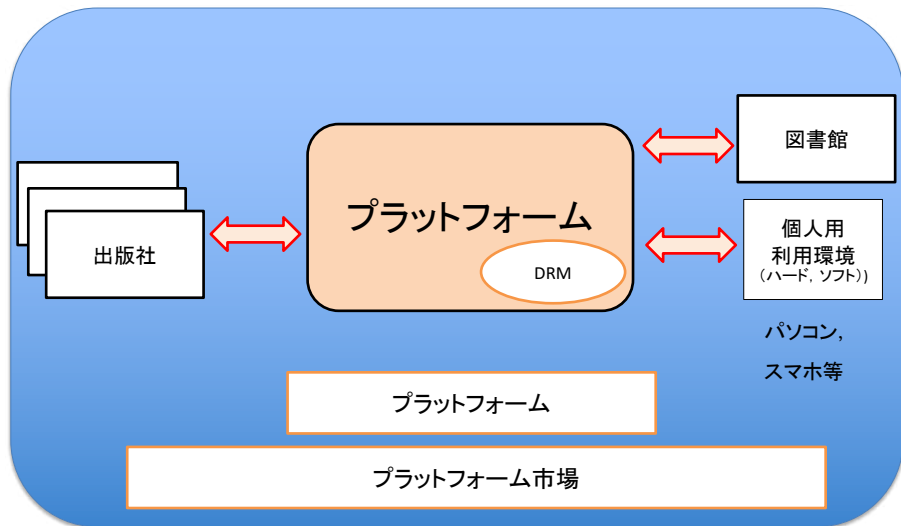
- 課題
 - 効率性, 持続可能性, 公平性の確保
 - コスト負担(誰が, どのように)
 - 保存問題, および真正性の確保(「信頼の枠組み」)

27

電子書籍

- 高い期待, しかし実態が伴わず(構造的問題)
 - 個人向け市場は, Amazon kindleの一人勝ち
- しかし
 - 「ファウスト的取引」(Clifford Lynch)
 - ライセンシング(契約期間, ファーストセール・ドクトリン = 消尽の否定), DRM, 機能の制限
 - 所有権(さまざまな権利の束)の消滅
 - Aaron Perzanowski and Jason Schultz. *The End of Ownership : Personal Property in the Digital Economy*. MIT Press, c2016.
 - 学術図書館市場と個人市場
 - 米国の学術図書館では, 買い取り(データローディング)またはリモートアクセス
 - 日本では, きわめて不明確
- 変化の兆候?
 - Penguin Random House - “one book one user” 「消尽に似た原則」
 - Library Simplified (ボストン, シンシナティ, ニューヨーク, サクラメント等の公共図書館の協力事業) - 電子書籍リーダーの開発と実用化に焦点, DPLA(Digital Public Library of America)やLyrisis等も参加

電子書籍プラットフォーム



29

デジタルによる 公共財の性質の変化

- 「この以前には捕捉できなかったものを捕捉する能力は、資源を非競合的かつ非排他的な公共財から、持続可能性と保存を確実にするために管理、監視、保護が必要な共有資源へと(以前と比べて遥かに容易に)移動させるという、資源の性質の根本的な変化をもたらす。」

Hess, Charlotte and Ostrom, Elinor. "Introduction: an overview of the knowledge commons," in Charlotte Hess and Elinor Ostrom eds. *Understanding Knowledge as a Commons: From Theory to Practice*. Cambridge, MIT Press, 2007, p. 3 – 26.

30

知識コモンズの経済学

		減少可能性(競争性)	
		低	高
排除可能性	困難	公共財 有用な知識, 夕焼け空	共有資源 灌漑システム, 図書館(紙媒体)
	容易	自然独占 電力会社, 鉄道会社	私的財 パソコン, 衣服, アイスクリーム

Borgman, Christine L. *Big Data, Little Data, No Data: Scholarship in the Networked World*. MIT Press, 2015.1, 383 p.; C. Hess & E. Ostrom (Eds.), *Understanding Knowledge as a Commons: From Theory to Practice*. MIT Press, 2007, p. 9.; N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学. 第2版①ミクロ編』東洋経済, 2005, p. 301 – 321.

31

知識コモンズの経済学

		減少可能性(競争性)	
		低	高
排除可能性	困難	公共財	共有資源 HathiTrust, 図書館(紙媒体)
	容易	自然独占 EJプラットフォーム	私的財 個人の蔵書(紙媒体)

Borgman, Christine L. *Big Data, Little Data, No Data: Scholarship in the Networked World*. MIT Press, 2015.1, 383 p.; C. Hess & E. Ostrom (Eds.), *Understanding Knowledge as a Commons: From Theory to Practice*. MIT Press, 2007, p. 9.; N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学. 第2版①ミクロ編』東洋経済, 2005, p. 301 – 321.

32

知識コモンズの経済学

		減少可能性(競争性)	
		低	高
排除可能性	困難	<p>公共財</p> <p>オープンアクセス・リポジトリ (Preprint, arXiv, HAL, Trust, 図書館(紙媒体))</p> <p>オープンアクセス?</p>	<p>共有資源</p> <p>Green OA</p>
	容易	<p>自然独占</p> <p>Gold OA</p> <p>EJプラットフォーム</p>	<p>私的財</p> <p>個人の蔵書(紙媒体)</p>

Borgman, Christine L. *Big Data, Little Data, No Data: Scholarship in the Networked World*. MIT Press, 2015.1, 383 p.; C. Hess & E. Ostrom (Eds.), *Understanding Knowledge as a Commons: From Theory to Practice*. MIT Press, 2007, p. 9.; N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学. 第2版①マイクロ編』東洋経済, 2005, p. 301 – 321.

最後に： これからの方向性

- 大学図書館の業務は、ますます集合的に
 - コレクションの共有, 維持・管理
 - 権利者との交渉(ライセンス契約, 著作権等)
 - そのために必要なマネージメント要素
 - 組織
 - 人材
 - 技術
 - 意思決定
- 国内的, 国際的な連携がますます重要に
 - ウェブ上での情報流通との関連
- 組織内部の視点と組織間での協調・連携のバランス